

泌尿器・副腎・腎移植外科に、過去に通院・入院された患者さんへ (臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られる検査結果などの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(令和3年3月23日制定、令和4年3月10日一部改正)の規定により、研究内容の情報を公開し、研究対象となる方等が拒否できる機会を保障することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせ、拒否される場合などがありましたら、以下の連絡先・相談窓口へご照会ください。研究への診療情報の利用を拒否された場合も不利益を受けることはありません。また、この研究については、香川大学医学部倫理委員会の審議にもとづく医学部長の許可を得ています。

[研究課題名] ロボット支援鏡視下前立腺全摘除術施行後の細菌尿に関する検討

[研究の目的] 限局性前立腺癌の患者様に対しては、標準治療として前立腺全摘除術が行われ、当院では現在、ダヴィンチ・サージカルシステムを使用してロボット支援鏡視下前立腺全摘除術を行っています。前立腺全摘除術後は尿道カテーテルを留置しますが、カテーテルをいつ抜去すべきなのかは定まっておりません。また尿道カテーテルの留置期間が長期化すればするほど、細菌尿の頻度が増加するとされています。今回の研究の目的は「ロボット支援鏡視下前立腺全摘除術後の細菌尿の発生割合から、尿道カテーテルの抜去時期を最適化する」です。

[研究の方法]

対象となる患者さん

2017年8月1日～2022年12月31日に香川大学医学部附属病院で限局性前立腺癌に対してロボット支援鏡視下前立腺全摘除術を実施された患者さん 215名

利用する診療情報

手術時の年齢、BMI、糖尿病の既往、Performance Status(PS)、ASAPS、initial PSA (iPSA)、生検時の Gleason score(GS)、前立腺癌の臨床病期(cTstage)、D'Amico リスク分類、術前ホルモン療法の有無、前立腺体積(prostate volume: PV)、全摘標本の Gleason score(GS)、病理学的病期(pTstage)、EPE および RM の有無、術中および術後の尿道吻合部リークの有無、手術時間、コンソール時間、出血量、術後尿培養、尿培養採取日、SSI 予防抗菌薬の種類、術中合併症、術後急性期合併症

[研究組織]

香川大学医学部泌尿器科学・教授・杉元幹史

香川大学医学部附属病院泌尿器・副腎・腎移植外科・病院助教・尾崎悠

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[連絡先・相談窓口]

香川大学医学部附属病院泌尿器・副腎・腎移植外科

担当医師 尾崎悠(おさきゆう)

住所 香川県木田郡三木町池戸 1750-1 電話 087-8912-2202, FAX 087-891-2203